

37

2015

特集1 田中優子さんに伺う 江戸から見る多様性
女と男、家族や結婚、働き方・暮らし方

特集2 MIWとの関わり
— MIW・男女共同参画センターのこれまでとこれから —

MIW

千代田区男女共同参画センター情報誌

通信



表紙は、今号にご登場いただいた皆様。
1段目左から、山口香さん、土堤内昭雄さん、矢島涼子さん、坂上暢幸さん、2段目戸川トモ子さん、3段目左から原ミナ汰さん、相原あすかさん、桑野里美さん、4段目左から、東小雪さん、大山葉奈さん、右下大きな写真、田中優子さん



「MIW」は千代田区男女共同参画センターの愛称です。MはMan(男性)、IはIntercommunication(情報や意見の交換)、WはWoman(女性)という意味です。男性と女性の間には、いつもI(自分らしさ)と愛(思いやり)をもって、対等な新しいパートナーシップを創造してほしいと願っています。

田中優子さんに伺う



江戸から見る 多様性

女と男、家族や結婚、働き方・暮らし方

性別だけでなく、それぞれの違いを活かす多様性（ダイバーシティ）を尊重する動きが進んでいます。江戸をひとつの鏡として、現代の私たちが多様性を考えるきっかけを法政大学総長の田中優子さんに伺いました。

■多様性の視点から、江戸時代の人々の生き方についてお聞かせください。

江戸時代の多様性にはマイナスの点とプラスの点があります。マイナスの点は、職業が階級に連動している点です。それが多様性として見えている。武士、商人、農家の生き方はそれぞれ違っていました。武士の子は武士の教育機関で教育を受けた。町や農村では寺子屋で勉強しました。そして職業によって使う教科書を

ともあり、そういう多様性もあつたのです。

そうした中でのプラスの点は、「無理してトップを目指す」ことがなく、競争しない」ということです。自分のいる範囲のなかで生きていい。もし能力があれば、農民でもイノベーションを起こせるし、武士に取り立てられる人もいました。現代のような激しい競争社会にはならず、「分を守る」けれど、伸び伸びと生きられたのです。

多様性を活かすための
弱さを補う組合せ

農工商とはいいますが、武士であり農民でもある人、農業も林業もしている人、武士であつて戯作や浮世絵を書いている人、近松門左衛門のように元武士で浄瑠璃を書いている人もいました。たくさんの方々があつて、様々な組合せがあつたのです。生まれたときから職業と階級が不可分でしたが、職業と経済力が連動している訳ではなく、武士は貧しく、商人は豊かというこ

もう一つの多様性は、仕事と家族関係です。家が仕事場であることが非常に多いので、家族のなかでそれぞれの弱さを補える利点がありました。たとえば、商家の場合、「主人」の仕事に朝の掃除がありました。雨戸を開けて掃除をした。家を清めた。それが男の仕事だった。子どもが産まれても、必ずしも母親だけが育てる訳

ではなかった。なぜなら、農家でも商家でも常に女性は働き手だったから、家族や使用人がそれを補っていたのです。専業主婦という存在はなかったで、働いている女性が子育てを自分だけの責務だと考えて無理をすることもなかったのです。子ども同士が子守などをしながら育て合い、長屋でも、社会でも、助け合いの関係ができていたのです。親が亡くなって孤児になっても、近所の人たちが金を出し合って「結」という互助組織を作り、その子がコミュニティの中で育っていくこともありました。可能であれば、家族、コミュニティがもっているそうした助け合いを取り戻せればいいと思いますね。

個人が伸び伸びとしながらダイバーシティの環境を生きていくには、必ず弱さを補う何かが必要です。障がい者が持っている弱さ、子どもを抱える母親がもっている弱さは、個々に違います。その弱さを必ずしもお金で一律に補うのではなく、個々の弱さにあつた補い方ができるかどうかがポイントだと思います。それを実現するには、社会という単位は大きすぎて難しい。実情がみえる小さい単位の方が個々に合った補い方はできるんですね。「ダイバーシティ」という言葉は抽象的に思えますが、それを実現するのは小さい単位です。

小さい単位で

違いを認める実現のために

「違いを認めましょう」だけでは生きてはいけませんからね。地域という小さい単位で実現するためにはどうしたらいいか。たとえば、私の友人のひとりは娘が医者で、娘が子どもを産むことになり、近くに保育園がないので医者をやめようかと言いました。娘が働き続けるために、母親である友人は近所に引越して、孫の面倒を見続けたのです。そうしたことができる家族もいるわけです。問題になっているのはできないケースです。家族が遠くに住んでいる場合

田中優子さんのお話を伺って



MIW 運営協議会委員
戸川トモ子

思い込んでいた江戸時代の人々のイメージと異なる部分を伺えて、楽しい時間だった。江戸時代なりの多様性の尊重があり、激烈な競争社会にならなかったという。自分自身のベストを目指し自分も他者をも大切にしたい生き方を見直すべきであろうと思う。また、江戸時代、男女での役割分担はきっちりと決まっていたことに驚いた。家族、長屋住民、近所で補い合いながら生活していたという。現代の都市生活のなかで、男女も年齢も関係なく、それぞれができること、苦手なことをお互いに補い合いながら生活することは可能なのだろうか。金銭が介在せず、一方的な奉仕ではなく、それぞれに応じてできる対等な関係性がほしい。また、祭りの話を伺いながら、あらゆる集団で、日頃から意識して各自の適性を見極め、発掘するよう取り組むことが必要だと思った。

や、祖父母の孫育てに対しての考え方もあるでしょう。それでも補い合うために組合わせることはできるのではないのでしょうか。保育園だけでなく、孫の面倒を見ている祖父母が、自分の孫だけでなく他人の孫も見られるかもしれない。資格の問題はあっても保育園だけでなく、元気な高齢

者がすむ住宅で保育をするなど、弱さを補い合う関係を作っていく、組み合わせていくことはできるのではないかと思います。一人の責任で子育てをするのが非常に困難な現実を皆で意識し、何らかのつながりを考えることができるはずです。自然に出来ていた時代のことをシュミレーションしてみ、

今それを作るにはどうしたらいいかを考えてみる価値はあると思います。

公に頼れなかった

江戸時代の互助

現代は公に頼りますが、江戸時代は、農民以外は税を納めておらず、そもそも国税や国家というものが存在しませんでした。藩や幕府は生産していない商人からは税は取れない。従って、藩が人々に税を還元することもなかった。だから、人々は自分たちで何とかしなければならなかった。そこで、「講」や「結」などの自助、互助組織を作りました。盲人の方たちも自分たちで組合を作って、盲人が就ける職業を独占しました。被差別民も皮革分野を独占していました。ある面では差別的固定化ですが、別な見方をすれば、公が助けられないことが前提なので、自分たちが生きていくために組織化していったのです。

結婚や男女、同性同士の関係

江戸時代、男性同士のゲイ（同性愛者）はごく普通のことでした。同時代のヨーロッパではゲイが処刑されていました。日本では処刑されることはなかったのです。室町時代から社会的に認められ、江戸時代に広まり増えていきました。というのは、それが一種の文化であったということですね。バイセクシュアル、つまり同性でも異性でもいいという人たちも江戸時代に相当数いました。それも文化的な現象で、肯定的に捉えられ、差別される事はなかったのです。

同性愛の出自は僧侶の世界。偉いお坊さんの世界ではゲイが当たり前でした。中世では武士の世界でも共有され、上の階層から、野蛮ではなくむしろ洗練された文化と解釈され、肯定的に受け入れられていったのです。

女同士の物語はないけれど、春画には描かれていて、問題視されることはなかったし、男装している女性も多かったのです。歌舞伎の発祥は、男装した女性が演じたものでした。

女と男、家族や結婚、働き方・暮らし方



「若衆」 葛飾北斎作
一見、女性に見えるが、江戸時代に「若衆」といわれた男性の姿。（スミソニアン博物館蔵）

そもそも結い上げる日本髪は女性の男装姿なのです。男女の着物の違いもあまりなく、女性の男装がファッションとして定着し、女性の髪が結い上げられるようになったのです。このことはつまり、男女別の表現がそれほどなかったということでもあります。

また、江戸時代の武家社会は男性支配／父系社会でしたが、夫婦は別姓で、別財産制でした。武士以外では結婚／離婚を繰り返す、男も女も一生独身でいることは珍しくなかったのです。結婚せずに子どもがいる人もおり、生活のために子どもの父親でない人との結婚もありました。里子も特殊ではなかったのです。つま

り、江戸時代は合理的社会だったといえます。

商家でも、主人が亡くなれば妻が継いだり、能力がある外のものに後を継がせました。血族の意識が薄く、組織を守るための能力主義でした。

江戸時代の祭りとは

子どもたちは小さい頃から祭りに参加するのは当たり前でした。子どもは寺子屋が終れば社会に出され、働かなければならなかったのです。祭りも、単なる遊びではなく社会に出る訓練で、誰もが参加しました。

祭りのなかで作り上げたノウハウや蓄積は、災害救助に直結していました。祭りを通して、誰がどんな能力を持っているか、それぞれの得意不得意を認識したわけです。リーダーシップをとれるか、技術があるか、交渉に強いかなど、それぞれがどんな能力を持っているかを大人たちが発見して育てていたのです。祭りという存在自体にそうした意味



小浜島のアンガマ（撮影：田中優子氏）
沖縄の八重山諸島で旧盆に行う、精霊迎えの祭り。あの世から帰ってきた先祖が、家々を練り歩くというしきたりをもとに、仮装して笛や太鼓をたたきながら家々を歩く。

があったのです。今は単なるイベントやお金儲けになってしまいました。

また、江戸時代、町のなかには地域や職業のつながりではないもつと小さいコミュニティとして「連」がありました。たとえば、和歌のパロディである狂歌をつくる「連」などのグループです。その「連」では、誰がどんな力をもっているかが分かると、狂歌だけでなく、さまざまな著作物を出版する、あるいは浮世絵の刊行などが行われ、新たな事をやっていく動き、つまりイノベーションが起こりました。『解体新書』の刊行もそうした

動きから出てきています。互いがもっている情報を交換し、組み合わせたのです。様々な能力と、ダイバーシティの活用が伺えます。

江戸時代の自己肯定感

それぞれの違いやダイバーシティを認めるためには、一人ひとりの個が問題になります。どれだけ自己肯定感を持てるかによって、発揮できる力が違うといわれています。

自己肯定感とは、何かの能力があるから肯定をする、という条件付きの肯定ではなく、生まれてきた人間として、自分が存在しているのだという基本的な肯定感のことです。私は江戸時代の子どもたちは自己肯定感が強いと思います。

それに気がついたのは、『好色一代男』を読んでいる時でした。6歳の世之介という主人公が女性を誘惑したり、いとこにラブレターを渡す物語があるのですが、それを知った親達が大笑いして喜ぶのです。性に興味を持つ子どもを叱る

江戸から見る多様性



田中優子さん

2014年から法政大学総長。専門は江戸時代の文学・生活文化、アジア比較文化。『江戸の想像力』（1986年、筑摩書房）『江戸百夢-近世図像学の楽しみ』（2000年、朝日新聞社、サントリー学芸賞、芸術選奨文部科学大臣賞受賞）など、著書多数。

のではなく、

喜んでいるのです。つまり、江戸時代、多くの子どもが死にましたから、よくここまで育ってくれたと、その生命力の強さを喜び、祝福していることが分かります。

「子は宝」という考えが社会に定着していて、それが子どもに肯定感を与えているのではないかと思っています。生きていてよかったというのが、個を保つことにつながっている。自分の力で乗り越えていく事ができる、との意識がどこかで植え付けられていくんですね。

現代

は、何

かができ

ればという

条件付きで

かわいがられていますから、「存在しているだけいい」とはなかなか思えない。個々が自己肯定感を持てることは、違いを認めて活かすダイバーシティにつながっていると思います。



MIWとの関わり

特集 2

— MIW・男女共同参画センターのこれまでとこれから —



矢島涼子さん

ちよだ女性団体等連絡会会長
(MIW 設立時から利用)

MIW を利用するきっかけは

PTA 学習会を主体に地域で活動しているサークル・団体の代表が参加し、ちよだ女性団体等連絡会が結成され、拠点が欲しくて5年ほど区に陳情し、やっと MIW ができた時からの利用。

MIW との関わりは

MIW 登録団体として活動。本団体のメンバーが運営協議会委員になり、今は私が MIW 祭り実行委員長として参加しています。

役立ったこと、変わったことは

女性が外に出られるのは PTA 活動の時ぐらいの時代から、女性が活動できる拠点がほしくてほしくてたまりませんでした。MIW という拠点ができて、次に全国の会議に出席し、全国の女性たちから刺激を受けました。

自分にとっての MIW とは

MIW 設立から MIW 祭り実施、スイスイとはいかないけど、やり続けていけば広がることを実感できる場。一人の女性として活動できる拠点。

これからの MIW に望むことは

千代田区にある大学との連携や、千代田区から全国区へと羽ばたいていく MIW であってほしいと思います。やればできるし、やらなくちゃね。

性別に関わりなく一人ひとりの個性や能力を活かす社会の実現のために、男女共同参画社会基本法が出来て 16 年、MIW も設立から 17 年が経ちました。今年 MIW では、交流サロンを広げ、サロンで講座を実施するなど、日々、利用者の皆様と歩んでいきたいと思っています。利用者にとっての MIW、これまでとこれからの MIW について伺いました。



MIW は男女共同参画社会の実現に向けた千代田区の拠点として、下の5つの機能をもって運営されています。

情報

知りたい事、発想の転換は、まずココへ

- 情報ライブラリ
男女共同参画に関する書籍や資料を所蔵し、情報提供
- MIW 通信・ライブラリ
ニュースの発行
- さまざまな問題提起や、千代田区の男女平等施策、所蔵図書を紹介 等

学習

きっかけづくりを応援します！

- 講座・講習会
主体的に学び活動するためのきっかけづくりとして講座を実施

支援

主体的な活動を支援します！

- 登録団体受付・活動支援
ミーティングルームやグループロッカーの無料貸出、ニュースレターの配架などを提供

MIW の機能

相談

ひとりで悩まないで一緒に考えます！

- 面接・電話相談
夫婦や家族、生き方や職場・働き方の悩みなどの相談を女性カウンセラー・女性弁護士が受ける

交流

情報交換や新しい仲間づくりに期待！

- 交流サロン
利用はどなたでも
- MIW 祭り・千夜一夜
MIW 登録団体が日頃の活動を紹介し利用者と交流する MIW 祭りや、情報や意見を交換する千夜一夜

2001



ふれあい祭り



区内の高校への出前講座「恋愛について語ろう！」

MIW 通信 7 号を使って作ったセクハラ防止ポスター



2000



区民と町をリポート。映画監督の羽田澄子さんと高齢社会をテーマにまち歩き



エンパワーメント講座
テーマは女性と仕事

1999



ビデオサロン



千夜一夜「東京の酪農家」
* 千夜一夜：MIW の情報交流会のこと

1998



男女共同参画センターが神田和泉町にオープン



講座「地域と家族」



MIW 通信創刊

10月1日
MIW
誕生！

MIW の歩み



岡村典子さん（仮名）

子育て中、子育てサークルで活動中。
（H25 年から利用）

MIW を利用するきっかけは
2 年前、MIW のグループワーク「自分探しと子育てコーチング」に参加したこと。

MIW との関わりは
昨年も MIW の「ゆる育児」の講座に参加。アンケートで出した希望テーマ・講師が、今年の MIW の講座実現につながりました。

役立ったこと、変わったことは
MIW の講座やライブラリの本で悩んでいることについて解決のヒントを得たり、自分自身を見直し、振り返るきっかけをもらえました。

自分にとっての MIW とは
MIW の講座を受けると「そのままの自分でいいよ」と自分を肯定するメッセージをもらえ、自分たちがやっている活動の思いとつながれるところがあると思います。

これからの MIW に望むことは
もっと早く MIW を知っていたら、気が楽になっていたことが多かったかも。一度来て利用すると MIW は子育て中のママたちの悩みと近いところにいるのに、まだ知られていないから、もっと、MIW を広めて、一緒にやっていきたいです。



坂上暢幸さん

一般社団法人裁判員ネット（MIW 登録団体）
理事、MIW 祭り実行委員（H22 年から利用）

MIW を利用するきっかけは
交流サロン内にある印刷機を利用したことから。

MIW との関わりは
登録団体となり交流サロンやミーティングルームを利用して、会議やチラシ作りなどを行っています。

役立ったこと、変わったことは
私たちの団体は区内在学・在勤者の若い世代が多く、MIW と関わることで、裁判員制度に関する区民講座の開催など、地域の方々と交流し、活動の幅と視野がグッと大きく広がりました。

自分にとっての MIW とは
チャンスの場です。新しいことへのチャレンジ、仲間を募ってサークルを作りたいなど、意志さえあれば機会を上げられる場です。老若男女、様々な方々と新たなネットワークを作ることできます。

これからの MIW に望むことは
もっと多くの方々に、MIW を知って活用してもらいたいです。そしてチャンスと交流の場を提供し、チャレンジしたい人の支援をこれからも続けてもらいたいと思います。



遥さん（仮名）

就活リハビリ中。
（H21 年から利用）

MIW を利用するきっかけは
元夫の DV から避難してきた当初、MIW の相談を利用しました。

MIW との関わりは
継続してカウンセリングを受け、また様々な講座で自分を見つめ直し、裁判所への同行支援という形で強気に支えて頂きました。
役立ったこと、変わったことは
DV 被害によりどん底に落ちたような状態でしたが、MIW を通じて様々なつながりを持つ事ができ、生きる気力を取り戻しました。

自分にとっての MIW とは
MIW は私にとって、大きな「心のよりどころ」であり、男女共同参画センターは「つながり合う場」です。

これからの MIW に望むことは
様々な人たちとつながることが出来る場が MIW だと思います。大々的なイベントや講座もいいけれど、「パープルリボン・カフェ」のように、手仕事をしながらゆったりした時間を過ごして心の回復を目指す…そんな場をもっと提供して頂けたら嬉しいです。



土堤内昭雄さん

ニッセイ基礎研究所主任研究員
（H15 年から利用）

MIW を利用するきっかけは
固定的性別分業があるのは男性にとっても生きづらい社会であり、男女共同参画について考えるため。

MIW との関わりは
MIW の講座に参加し、その後数年間にわたり運営協議会委員を、2005 年からは千代田区男女平等推進区民会議委員を務めています。

役立ったこと、変わったことは
人間は性別のほかにも様々な違いがあり、誰もが生き生きと暮らせる社会づくりの重要性を実感しました。

自分にとっての MIW とは
男女共同参画センターは、女性センターとしてだけでなく、男性にも当事者として働きかけることが重要。

これからの MIW に望むことは
性別や年齢を問わず多様な人を受入れるセンターであって欲しい。そして、誰もが自分らしく生きられるという基本的人権を守ることを男女共同参画の原点として活動していただきたいです。今後もセンターの一層の活動と発展を期待しています。

2006



大手町カフェでの北欧から学ぶ講座



講座のポスター

2005



MIW 通信 18 号「対談：住田裕子さんと石川雅己区長」

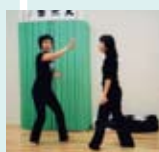


パープルリボンプロジェクト
パープルリボンキルト第 1 号

2004



福祉まつりに参加「MIW チャレンジワールド」



講座「負けない自分になろう」で護身術を体験



千夜一夜「アロマで暮らしを楽しみませんか？」

2003



海外・国内の DV 防止のポスター展示



講座「あなたの身近な DV」では利用者とともに寸劇を制作

2002



共催事業で与謝野晶子についての講演会と展示



男女共同参画週間展示「平塚らいてふと『青鞥』の女たち」



ライブハウスで若者のエイズ検査をする医師を MIW 通信で取材

MIW 運営協議委員会の皆様から

MIW 運営協議会は、MIW を具体的な問題解決に取り組む活力ある実践的な場にするために、区民と行政が協力してMIWの事業企画や運営などについて協議します。委員の任期は2年。今年、在住・在勤者等から公募により選ばれた4名の委員の方に、抱負を伺いました。

滝澤一雄さん

千代田区の男女共同参画センター MIW は、千代田区役所 10 階にあり、男女共同参画に関する資料・情報提供はもちろん、学習機会の提供・活動支援などが行われています。

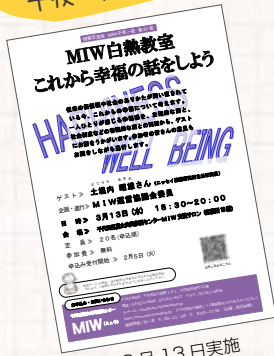
平成 27 年度から MIW 運営協議会委員になりましたが、まず、このセンターの存在を多くの人に知っていただきたいと思っています。少なくとも千代田区在住、在勤、在学の方は、身近に相談でき、また交流できる場所があることを知ってほしいと思います。そのためには、多くの場で情報発信するよう努めてまいります。

中谷ゆうさん

神田の街の情報を発信する番組「おさんぽラジオかんだ神保町」などの制作を行っています。今はインターネットでの配信ですが、将来はコミュニティFMでの放送を目指しています。

委員の活動では、MIW に直接届きにくい様々な立場の方の声を MIW に届け、そして MIW が発信する情報をまだ MIW をご存知でない方に積極的にお届けできればと思っています。人が集まる所には情報も集まり、人が会うことで新たな発見もあります。今後も MIW が人と情報の交差点としてその役割を存分に発揮することを期待しています。

千夜一夜 87 夜



H25 年 3 月 13 日実施

千夜一夜 92 夜



H26 年 2 月 5 日実施

これまでに MIW 運営協議会委員が企画してきた千夜一夜のチラシ。87 夜「MIW 白熱教室これから幸福の話をしよう」、92 夜「いっくつになっても好奇心〜今年こそは一步踏み出そう!」

戸川トモ子さん

地域の団体で活動中の 1990 年代に女性センター設置の陳情などを経て、1998 年男女共同参画センターの MIW が開設、それから 17 年が経過しました。その間に現千代田区庁舎 10 階に移転し、アクセスはよくなりました。ようやく女性問題が意識され始めた当初に比べ、昨今では男女平等意識は広まりましたが、MIW の認知度はまだ高くはありません。あらゆる機会及び事業を通じて MIW の存在を知ってもらい、継続的に活用してもらうことが男女平等意識の「定着」につながります。最重要課題として、MIW とともに推進していきたいです。

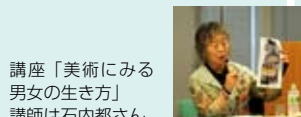
2011



男女共同参画週間展示「映画に見る家族」
映画のポスター 80 点余りを展示



千夜一夜 78 夜「働きながら社会貢献を始めてみる」

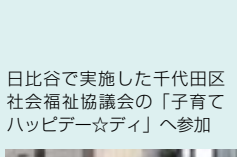


講座「美術にみる男女の生き方」
講師は石内都さん

2010



パープルリボンコンサートで暴力のない世界をアピールするジャズを聴くタベ



日比谷で実施した千代田区社会福祉協議会の「子育てハッピー☆ディ」へ参加



2009



男女共同参画週間展示「きらめきのひと」
育児や料理など女性中心とされていた分野で活躍する男性たちの写真を展示



千夜一夜 65 夜
「医師夫婦対談 もう一度、夫婦ふたりのいい関係」 千代田区在住の堀口貞夫・雅子夫妻のお話

2008



デート DV 防止啓発講座
「愛していれば許される？」
で大学生による寸劇



男女共同参画週間展示「自分の Merry、世界の Merry」

2007



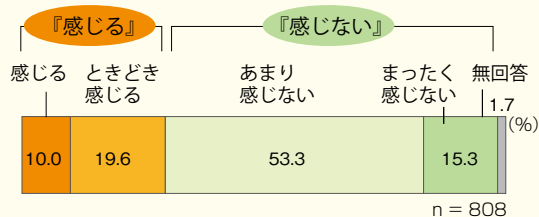
現庁舎移転記念シンポジウム「ナミねえとレモンさんに聞いてみよう! 元気の秘訣はなんですか?」



5 月
現庁舎
に移転

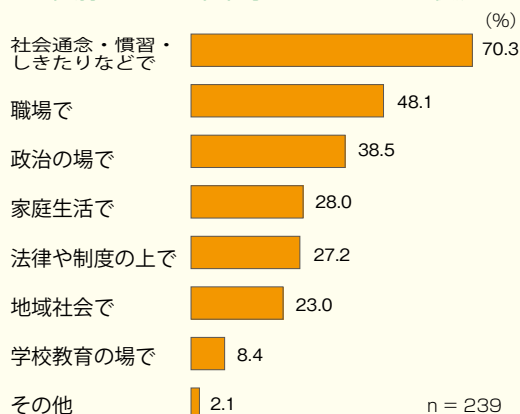
千代田区の世論調査から

性別によって不平等があると感じたこと



26年度の世論調査によると、性別による不平等があると感じる人は、「感じる」と「ときどき感じる」をあわせると約3割となっています。

性別によって不平等があると感じる状況



性別によって不平等があると感じる状況は、社会通念や慣習・しきたりがトップで、ついで、職場、政治の場でした。性別による不平等がなく、誰もが自分自身の選択を認められて参画できる社会の実現に向け、MIWでは様々な取組をしています。

(第41回千代田区民世論調査 H26年10月～11月実施)

昨年のMIW運営協議会委員の企画による千夜一夜98夜「Youは何しに千代田区へ？」ゲストはフランス、ベトナム、韓国、インドネシア、中国から来られた方々

千夜一夜98夜「Youは何しに千代田区へ？」



H27年2月18日実施

三浦まりさん

MIWは区役所の中に併設されていて、区民にはアクセスしやすい場所にあります。啓発活動や相談事業に力を入れており、微力ながらお手伝いできて嬉しく思います。女性が活躍しやすい社会は、男性にとっても生きやすい社会。お互いの違いを認め合って、暴力や差別のない社会を作っていくことはとても大切だと思います。日本の中心にある千代田区こそ、率先して、希望のある社会の形成に向けてみんなで力を合わせたいですね。皆様の参加に支えられながら、私も運営委員としてMIWを盛り立てていきたいと思っています。

2015



MIWの交流サロンが変わりました。レイアウトを変更し、椅子も一新。サロンが広くなり講座もサロンで実施します

2014



非暴力をアピールするパブリックアートにLEDを点灯し、区役所入口に展示



男女共同参画週間記念イベント対談「男性はこれからの世界を救えるか」。瀬谷浩介さん(左)と青野慶久さん(右)

2013



パネルディスカッション「女性世界を救えるか？」フィンランド、ノルウェー、カナダ、日本のパネリストたち



第1回MIW祭り開催。テーマは「生き方探検-自分らしく輝くために」

区内の正則高等学校でのデートDV防止啓発講座。高校3年生の男子たちに向けて



2012



男女共同参画週間展示「未来へー女性建築家のパイオニアたちの肖像展」



連続講座「幸せへ向かう生き方」の6回目、まとめのワークショップの様子

元文部大臣・赤松良子さんの講座「男女が輝き、幸福になるために-パイオニアからのメッセージ」





UR都市機構と千代田区役所 働く女性の異業種交流会

6月26日、千代田区役所で、UR都市機構と千代田区役所でワーキングマザーとして働いている女性たちの異業種交流会が開かれました。ランチタイムを活用し、働き方や子育てについての情報や経験を共有し、これからの生き方を考えました。



URの女性がみんな
前向きで刺激にな
りました（区職員）



女性の働きやすさ生き
やすさを、企業と行政
が一緒に話せてよかつ
た（UR都市機構社員）



この日は、UR都市機構から8名、千代田区から9名の子育て中の働く女性たちが集まり、仕事や生活での悩みを語り合いました。「食材も通販を利用、しかも注文は通勤電車の携帯から」や「元気になるために、自分のために使う時間を確保」など、取り組んでいる解決法やアイデアも出し合い、終わった後には、「元気をもらった。またやりたい!」との声が出ていました。



仕事と子育ての両立のためのハンドブック

千代田区では職員向けの「仕事と子育てとの両立のためのハンドブック」を発行しています。仕事と子育ての両立支援の制度や手続きの他、職員のコラム、産前産後の休暇までにやっておくべきリスト、妊娠中の変化などについて書かれています。その他、子どもを保育園に入れるための活動の体験談や産前産後の休暇から育児休業を経て復職に至るまでの収入モデルケースなど、具体的な内容が盛り込まれ、好評だったとのこと。ご自身が子育て中で、今回のランチセッションにも参加し、ハンドブックの発行に携わった榎原久美子さんは、「女性職員だけでなく、男性職員の皆さんにも知ってもらい、より働きやすくなれば」と話しています。



総合窓口課 榎原久美子さん
（ハンドブック編集当時 人事課所属）

第3回 MIW祭り

一人ひとり～違いは力

10月2日(金) — 3日(土)

9:00 ~ 21:00 9:00 ~ 16:00



区民ホール



ステージでのイベント

オープニング イベント

共立女子大学吹奏楽団
アンサンブル

神保町応援隊

■ 大人のためのおはなし会「虹～こころの架け橋～」

講演会

「一人ひとり～違いは力」

政治における多様性を求めて

■ 講師 三浦まりさん (上智大学法学部教授)

ちよだ女性団体等連絡会

■ 「若い時から考えよう！
女性一生（思春期・成熟期・更年期）の健康」
堀口雅子さん（主婦会館クリニック産婦人科医）

団体ブース・パネル展示

(公財) 東京基督教女子青年会 (東京 YWCA)

■ 「一人ひとりが自分らしく生きられる社会を
めざして～東京 YWCA の活動の流れ～」

九段労務研究会

■ 相談会 「仕事の悩みはありませんか」

Smile 研究会

■ コーディングお試しセッション「話してスッキリ」
■ 診断 「あなたは男性脳？女性脳？」

千代田区女性史サークル

■ クイズ「千代田区ゆかりの作家たち」
■ ミニワークショップ「折形（おりがた）って何？」

キララ・ソーイング

■ 「自由な縫い物で心を癒そう」

千代田アマ・ビデオクラブ

■ 「誰でもカンタン！DVD作成講座」

ななかまど

■ 「癒しのハンドマッサージ」

ホームヘルパー全国連絡会

■ 介護なんでも相談会

休憩・交流スペース

図書リサイクルコーナー

パネル展示

■ MIW 登録団体

ちよだ女性団体等連絡会
(一社) 東京建築士会女性委員会
バリアフリー部会
NPO 法人 エガリテ大手前
すずらんの会
神保町応援隊
(一社) 裁判員ネット
みゆ企画 友の会
グループ NIKO
家庭栄養研究会
グループ ふだんぎの幸せ

■ 区内の大学

明治大学
・ 男女共同参画推進センター
・ 女性研究者研究活動支援推進本部
上智学院
・ 男女共同参画推進室
上智大学
・ 田中雅子先生ゼミ

受付・MIW 紹介展示

MIW 施設内

ワークショップ・映画・相談

(一社) 裁判員ネット

■ 「熟議ワークショップ～多様な意見をもとに考えよう～」

グループ ふだんぎの幸せ

■ 映画「スタンドアップ」についてのミニサロン

ホームヘルパー全国連絡会

■ 介護なんでも相談会

の枠内：区民ホールで実施

の枠内：MIW 施設で実施

男女共同参画週間講演会

五輪メダリストが語る **女性とスポーツ**

■平成 27 年 6 月 18 日 (木)

■山口香さん (柔道家・筑波大准教授)

女子柔道界のパイオニアである山口香さんにご自身の経験を踏まえて、女性とスポーツについてお話を頂きました。ロンドン五輪では 204 カ国の女性が 26 競技すべてに参加するなど、今、女性たちの活躍には目覚ましいものがあります。しかし、4 割の女性アスリートに月経異常があり、指導者との力関係に悩む現状もあるとのこと。「女性アスリートの抱える問題は女性の抱える問題」と話されました。



山口香さん (ソウル五輪・柔道銅メダリスト)

会場の区民ホールに「女性アスリートとスポーツ」のパネルを展示しました



「怒り」と上手につきあうための **アンガーマネジメント講座**

■平成 27 年 6 月 11 日 (木) : 女性向け
平成 27 年 6 月 16 日 (火) : 男性向け

怒る必要のあることは上手に怒り、必要のないことは怒らないですむように、怒りの理由や性質、自己コントロールの仕方を学びました。



講師の大山葉奈さん (6/11)



講師の桑野里美さん (6/16)

子育て中のイライラを上手に乗りきるための **アンガーマネジメント講座**

■平成 27 年 6 月 27 日 (土)、7 月 4 日 (土)
子育て中の方たち向けの講座。グループに分かれて各自の悩みを語りながら、



講師の相原あすかさん

アンガーマネジメントのやり方を実際に体験しました。

私自身を生きるさまざまな性

I 同性同士のパートナー

■平成 27 年 8 月 5 日 (水)

女性をパートナーとして暮らしている講師が、自分自身を大切にしたい生き方について話されました。



講師の東小雪さん

II からだの性と心の性

■平成 27 年 8 月 13 日 (木)

「からだは女性、心はいろいろ」というような性のありようの多様性について、講師ご自身の経験をもとにわかりやすくお話し頂きました。



講師の原ミナ汰さん

MIW 相談室

MIW の相談室では、夫婦関係、男女の生き方・働き方、性に関すること、セクシュアル・ハラスメントや夫婦や親密な関係での暴力などについて相談を受けています。面接でも電話でも相談できます。予約制です。(区内在住、在勤、在学の方対象)

電話での予約 ☎ **03-5211-4316** 無料・カウンセラーや弁護士 (女性) が担当します

◆相談日時

火曜日
法律相談 (女性のみ)
第 2 13:30 ~ 16:30

水曜日
第 1・3・5 10:30 ~ 15:30
第 2・4 17:00 ~ 21:00

木曜日
第 1・3・5 17:00 ~ 21:00
第 2・4 10:30 ~ 15:30

金曜日
第 1・3・5 10:30 ~ 15:30 (英)
第 2・4 17:00 ~ 21:00 (英)

土曜日
第 1・3・5 10:30 ~ 15:30
第 2・4 10:30 ~ 15:30 (英)

※ (英) = 英語での相談もできます。
在住の方のみ、託児サービス (有料) があります。

MIW インフォメーション

◆キャリアを再スタート！したい人のための準備講座

自己分析をして今後のプランを立てよう！

日 時 10 月 30 日 (金) 10:15 ~ 12:15

講 師 栗原知女さん (NPO 法人ライフキャリア総合研究所理事長)

知っておきたい働く女性のための社会保険制度

日 時 11 月 13 日 (金) 10:15 ~ 12:15

講 師 澁谷美佳さん (特定社会保険労務士)

面接で自信をもつカラーコーディネート

日 時 11 月 27 日 (金) 10:15 ~ 12:15

講 師 西川礼子さん (カラーイメージコンサルタント)

◆これからの女性の生き方を拓く (申込開始 10/5 から)

人生の選択肢は広がるのかー「無頼化する女性」を考案する

日 時 10 月 29 日 (木) 18:30 ~ 20:30

講 師 水無田気流さん (詩人、社会学者)

アクティブリスニングでコミュニケーションを磨く

日 時 11 月 5 日 (木) 18:30 ~ 20:30

講 師 水野順子さん (産業カウンセラー)

会場はともに
MIW 交流サロン。
申込みは MIW まで。



千代田区男女共同参画センター **MIW (ミュウ)**

所在地 〒102-8688 東京都千代田区九段南 1-2-1 千代田区役所 10 階
交通機関 東京メトロ東西線、半蔵門線、都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車、徒歩 5 分
開館時間 月曜日～金曜日 午前 9 時～午後 9 時 土曜日 午前 9 時～午後 5 時
休館日 日曜日、祝日、年末年始
TEL 03-5211-8845 / 相談予約受付 03-5211-4316 FAX 03-5211-8846
E-mail miw@city.chiyoda.tokyo.jp
URL http://www.city.chiyoda.lg.jp (「暮らし」▶「男女平等・人権・平等事業」▶MIW からお入りください)

◆編集後記

★1986 年に「男女雇用機会均等法」が、1999 年には「男女共同参画社会基本法」が成立。そして今年の夏、「女性活躍推進法」が成立しました。性差を意識することなく、すべての個人個人が輝く社会の構築にはどれくらいの時間を要するのでしょうか。ワーク・ライフ・バランスの推進と共に、より加速して欲しいです。★特集 2 でも触れましたが、MIW の交流サロンが少し広くなりました。今まで以上に講座やイベントを MIW のフロアで実施していきます。多くの方々が集い、つながり、身近な交流の場としてご活用いただきたいと思います。(Y)